

Weekly Report



ロータリー：
変化をもたらす

2017～2018年度
国際ロータリーのテーマ
ロータリー：変化をもたらす
(ROTARY: MAKING A
DIFFERENCE)

2017～2018年度
名古屋瑞穂ロータリー
クラブ会長のテーマ
ロータリーの品格を高めよう!

創 立：1980年(昭和55年)11月10日
会 長：稲葉 徹
幹 事：大嶽 達郎
クラブ委員長：鈴木 健司
例 会 日：毎週木曜日 PM12:30～
会 場：ヒルトン名古屋

事 務 局：460-0008
名古屋市中区栄1丁目3-3 AMMNATビル7F

T E L：052-211-3803
F A X：052-211-2623
M A I L：2760_nagoya@mizuho-rc.jp
U R L：http://www.mizuho-rc.jp/

第1799回例会

～会員増強・新クラブ結成推進月間～
クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2017年8月24日(木) 晴れ 第7回

司 会：長谷川隆会場委員
斉 唱：「それでこそロータリー」「四つのテスト」
グ ス ト：スペシャルオリンピックス日本・愛知理事長 鈴木盈宏さん
：スペシャルオリンピックス日本・愛知ボランティア委員長
八塚奈保子さん

会長挨拶

稲葉徹会長

皆さんこんにちは。8月は会員増強・新クラブ結成推進月間でございます。これまでの会員増強・維持に加えて新クラブ結成も推進されるようになりました。今回は会員増強について少しお話をさせていただきますと思います。



会員増強の「増」は会員の量を増やすことであり、会員増強の「強」は会員の質を高めることであると言われています。今年度、第2760地区神野ガバナーは活動指針の1つに会員増強を挙げられ、会員増強は各クラブの今後の活動を考える課題であると述べられています。2015-2016年度において、世界では15万8,000人が入会し、一方で15万3,000人が退会されました。当地区でも323人が入会し、333人が退会、結果マイナス10名ということになっています。退会防止のためには魅力度アップ、次にクラブや地区の活動に参加してもらうことが大事であり、ロータリー生活に楽しさが感じられれば、退会防止は出来るはずであるということです。そのためにクラブごとに例会の魅力度を大きくして楽しいものにしてほしいと言われております。

それを受け、当クラブでも私の会長方針に「ロータリーの品格を高めよう!」を掲げ、活動計画の1番目には「会員相互の親睦を深め、明るく楽しい、活気あるクラブにする」を掲げさせていただきました。明るく楽しく活気ある例会を目指して、会員増強としては会員純増2名を目指しております。

ここで、ロータリーの友8月号に掲載されていた会員増強に成功した大宮西ロータリークラブの例をお話しさせていただきます。大宮西ロータリークラブは一時100人を超えていた会員が42名まで減少してしまったということで、あるベテランの会員が会長エレクト兼増強委員長となられ、強力なリーダーシップのもと、2013年のクラブ50周年時には85人に倍増し、さらに4年後の現在は113名と、3倍強まであと少しのところまで来ているということです。この増強計画のポイントは「3本の矢」で、ロータリーの魅力をPRしたことです。すなわちロータリー活動の両輪である親睦と奉仕、これに加えロータリーで長年タブーとされてきた事業上の利益増大・ビジネスチャンスの利点を打ち出し、力強い3本の矢でロータリーの魅力を訴えられたそうです。元気ある、活力溢れるクラブにするため、1人につき1人の増強を提案し、42人から84人への倍増、さらに新会員からの紹介で126人へと3倍増する計画を立てたそうです。例会のたび壇上に立って増強を強く何度も呼びかけた結果、業種にとらわれることなく、30～40代の若手経営者の方を積極的に開拓することができたということです。詳しくはロータリーの友8月号8ページから9ページをご参照下さい。

この大宮西ロータリークラブの例でも分かるように、例会のマンネリ化、奉仕活動の前年度踏襲型、高齢化による停滞感を排除するべく、当クラブでも2年後の40周年を迎えるにあたって、これから会員の量と質に配慮しつつ、会員増強を図っていく方策を考えていかなければならないと思います。会員増強及び維持委員会には早急に委員会を開催していただき、会員1人につき1人紹介してもらおうといった具体的行動をお願いしたいと思います。会員の皆様にも、会員増強及び維持委員会にのみ任せるのではなく、ぜひクラブの未来のために新会員の紹介をこれまで以上にお願いしたいと思います。以上よろしくお願い致します。

出席報告

永草孝憲出席委員

会員64名 出席44名 (出席計算人数48名)

出席率 75.9% 8月10日は補填により 87.5%

ニコボックス

永草孝憲ニコボックス委員

- ・誕生日です。 佐藤 善乙さん
- ・妻の誕生日にお花をありがとうございました。 加納 裕さん
- ・暑い日が続きます。体に気をつけましょう。 岩本 成郎さん
- ・暑い日が続きます。お体ご自愛下さい。 酒井 俊光さん
- ・今月は8/2に有る事で肋骨を骨折してしまい、何も出来ない状態です。 松波 恒彦さん
- ・昨日、ボクシングの応援に後楽園ホールに行ってきました。 鈴木 淑久さん

幹事報告

大嶽達郎幹事

- ・本日18:00から関谷直前幹事慰労会を蓮葉軒 神宮店にて行います。
- ・次週8月31日(木)16:30から定款・細則変更プロジェクト会議をヒルトン名古屋4階「櫻の間」にて、17:00から社会奉仕委員会を事務局にて行います。また18:00からはなごやか例会をヒルトン名古屋4階「桜の間」にて行います。

感謝状

2016-17年度ロータリー財団100周年を記念して地区目標に多大に貢献したということで感謝状をいただきました。



共に生きる社会

こんにちは。スペシャルオリンピックス日本・愛知ボランティア委員長の八塚奈保子と申します。よろしくお願ひ致します。

まずスペシャルオリンピックスの活動についてご説明します。スペシャルオリンピックスというと大会のことだと思われるかと思いますが、そうではありません。スペシャルオリンピックスでは知的障害のある方々に1年中オリンピック形式のスポーツを提供し、トレーニングも行っています。トレーニングの成果を発表する場となる競技会も提供しています。スポーツを手段として知的障害のある人たちの自立と社会参加を目指しております。スペシャルオリンピックスには使命があります。それは先程申し上げたように1年中競技会を行うこと、体力をつけてもらうこと、さらに勇気を持つことです。知的障害の人は、自分で色々なことをするのが難しいです。時間がかかったり、しづらいことがあったりします。例えば陸上競技では一人でスタートラインに立つことすらできない人が多いです。そのためには勇気が必要です。またスポーツ自体も非常に楽しみにしてくれており、勝ったら嬉しい、負けたら悲しい・悔しいという気持ちの部分も表現することができるようになります。このような活動を継続的に行っています。

私たちは知的障害のある人たちを「アスリート」と呼んでいます。スポーツをする人のことをアスリートと言いますよね。また一生懸命活動されるので、尊敬の念を表してそう呼んでいます。アスリートはスペシャルオリンピックスのプログラムに参加し、成長していきます。またアスリートの家族を「ファミリー」と呼び、私たち含め活動を支える全ての人を「ボランティア」と呼びます。こういった人たちと色々な部分を分かち合えます。

このスペシャルオリンピックスの始まりは、1962年にアメリカの故ケネディ大統領の妹であるユニス・ケネディ・シュライバー夫人がきっかけです。ケネディ家に知的障害のある人がいましたが、この時代では家族の中で隠されて生きていきました。それに対しシュライバー夫人は「なぜ障害があると外に出してもらえず、家族でも差別されるのか」と憤りを感じていました。また障害があることでスポーツをさせてもらえず、チャンスがないことにも心を痛め、そこから自宅の庭を開放してサマーキャンプを開いたことがスペシャルオリンピックスの始まりとなっています。そして障害があってもスポーツを楽しんでもらいたいという思いからスペシャルオリンピックスという団体を立ち上げ、シュライバー夫人は40年もの間活動を行ってきました。活動を通じて可能性の実現・社会の否定的な固定観念、差別を変えるため生涯を捧げたのです。

スペシャルオリンピックスの国際本部はワシントンD.C.です。日本は東京の虎ノ門に事務局を構えています。愛知県は堀田駅のすぐ近くに事務局を構えて活動しています。現在170カ国以上、アスリートは約500万人が参加していますが、日本では7,000人ほどしかまだ参加できていません。本日スペシャルオリンピックスという名前を初めて聞いた方が多いと思います。私たちはもっと色々な場面で広めて、多くのアスリートに参加してもらえるように努力しなくてはならないと思っています。

次にスペシャルオリンピックスの名称について説明をさせていただきます。国際オリンピック委員会とは違う組織ですが、オリンピックの名称の使用を認められている組織です。またスペシャルオリンピックスと複数形になっているのには意味があります。これは日常的なトレーニングから世界大会に至るまでいつでも世界のどこかでこの活動は行われているということです。日本では細川元首相の奥様である細川佳代子さんが最初の会長になり、1994年に組織を作っています。現在の理事長は元女子マラソン選手の有森裕子さんです。愛知では1999年から活動を開始しました。設立が2000年なので今年度17年目、来年度が18年目になりますが、来年度の全国大会を愛知県で行うことになりました。名古屋市、豊田市、刈谷市、大治町、日進市で会場をお借りして、13競技を行う予定です。競泳、陸上競技や、冬季のプログラムも行っています。またスポーツだけではなく絵画教室やダンスプログラムを行ったり、ダンスではど真ん中祭りにチームを派遣しています。ボウリングではパーフェクトを簡単に出すアスリートもいれば、ガーターばかりで1点も取れ

ないような、プログラムに来ることが精一杯というアスリートもいます。そういう人も一緒に仲間として活動を行っています。またフロアホッケーという競技もあります。アイスホッケーのフロア版と思っていただければ良いです。最初の頃はバスケットボールやサッカー、フロアホッケー等のチーム競技はOWNゴールの連続でした。自分のゴールがどちらか分からないそうです。しかし練習を積み重ねていくうちに、どこにゴールすればいいかが分かるようになってきました。そういう時に私どもコーチは非常に喜びを感じます。

スペシャルオリンピックスのアスリートとしてトレーニングに参加できるのは6歳から、競技会に参加できるのは8歳以上ですが、2歳半からは親子体操教室があります。これは競技ではなくまずお父さんお母さんと一緒に体操しながら社会に参加するという目的があります。さらに、早めにスポーツをすると色々な面で効果があるということで、ヤングアスリートプログラムというものも提供しています。

スペシャルオリンピックスは全てボランティアです。事務局もボランティアで行っております。トレーニングのボランティアはもちろん、印刷物も実は某会社をお願いしてご支援いただいています。全国大会は2018年9月22日～24日で、ボランティアは約4,000人～5,000人、参加者はアスリート約1,000人なので、愛知県で約2万人がスペシャルオリンピックスの大会のために集まることになります。現在は資金応援ボランティアとして会員になっていただいたり募金いただいたりということをお願いしているところです。

スペシャルオリンピックスの競技会はアスリートの日頃のトレーニングの成果発表の機会です。全てのアスリートへ声援を送ることをお願いしています。1人1人の頑張りを称えるため、表彰は1位から最下位(8位)まであり全員表彰となっています。これがスペシャルオリンピックスの特徴です。

本日のテーマに掲げている「共に生きる社会」は、私が平日頃から思っていることです。障害のある人もない人も、この社会では一緒に生きていかなくてはいけないということを心に刻みながら活動を行っています。スペシャルオリンピックスのスポーツは結果より過程を重視しています。アスリートの成長にはスポーツが大きなプラスになりますし、アスリートと共に活動することは地域社会に大きなプラスになります。彼らの頑張りが笑顔を見て地域の皆様が心を打たれる場面が多々あります。

また個人があるがままに受け入れられ、認められるような社会になることを私は願っています。差別や偏見はまだありますが、たまたま知的障害があるだけで彼らも生きる権利があります。そして輝く場面も必要なので、私たちは輝ける場面を多く準備しています。まずは知的障害の人たちがスポーツで頑張っていることを知ってほしいのが私の願いです。何かご支援をいただけるならそれは本当にありがたいことです。皆様の知り合いで知的障害のある方がいらっしゃるかもしれません。もしあれば私たちに声をかけて下さい。一緒に活動できればいいと思います。また繰り返しになりますが、ご寄付やご協力をお願いしたいと思いますのでどうぞよろしくお願い致します。ご清聴ありがとうございました。



例会のご案内

■今週の行事 8月31日(木) なごやか例会

場 所：ヒルトン名古屋4階「桜の間」

時 間：18:00～20:00

■次週の卓話 9月7日(木)

テ — マ：障害者の自立と社会参加を支える介助犬

卓 話 者：日本介護犬協会 専務理事
高柳友子さん

■次々週卓話 9月14日(木)

テ — マ：身体のシグナル!?～本当にあるのですか～

卓 話 者：医食タレント きくち教児さん